

時代	奈良時代	遺跡	隠岐国分寺跡、隠岐国分尼寺跡（隠岐の島町）
奈良時代の隠岐 ～隠岐国分寺跡～			
741年、聖武天皇は国家の安泰と五穀豊穡を願って、全国の国々に国分寺・国分尼寺を造るよう命じました。			

島根県では、隠岐、石見、出雲で、それぞれの国分寺と国分尼寺の遺跡が確認されています。

国分寺跡は隠岐の島町池田風呂前に、国分尼寺は隠岐の島町池田尼寺山にありました。



図5 本瓦葺き



図3 隠岐国分尼寺跡



図1 隠岐国分寺跡



図4 隠岐国分尼寺跡の軒丸瓦



図2 隠岐国分寺跡の軒丸瓦

国分寺と国分尼寺の屋根には瓦が葺かれていました。奈良時代に瓦を葺いたのは寺院や役所などの特別な建物だけでした。当時の葺き方は、平瓦と丸瓦を交互に重ねる「本瓦葺き」でした。（左上の写真）瓦の先端には模様の付いた瓦を配置して軒先を飾っていました。図2，4は、隠岐国分寺跡と隠岐国分尼寺跡で見つかった丸瓦の先端に配置される「軒丸瓦」で、蓮の花の文様が描かれています。

国分寺や国分尼寺には、金堂、塔、僧坊、講堂などの建物が建てられていました。金堂は仏像を安置する中心的な施設、塔は仏舎利を奉る施設、僧坊は僧侶の住まい、講堂は僧侶が勉強する施設です。この他にも、鐘をつく鐘楼、経典を納める経蔵、食堂などがありました。国分寺は、瓦がきらめく巨大な建物が立ち並ぶ、当時の最先端の施設だったのです。



図6 出雲国分寺想像図

倉印は税の出納管理をするために使用された印鑑でした。駅鈴は、古代に役人が公用で旅をする時に支給され、駅（食事や宿舎を提供する施設）の馬を使う権利を証明するものでした。



図7 倉印



図8 駅鈴

図9 和同開珎 和銅元年(708年)に鑄造された和同開珎は銅製と銀製があります。西ノ島町の黒木山横穴墓からは銀銭が出土し、字形から708年製に近い所産だと考えられます。近畿より西での発見は稀です。



出典：解説…図1～5，7，8，9山陰史跡ガイドブック4『山陰の古代遺跡』2009年 史跡整備ネットワーク会議事務局
図6『いにしへの島根ガイドブック』6巻1996年 島根県古代文化センター 図10 同左5巻（ワークの木簡も同じ）
ワーク…写真（和同開珎X線画像）『黒木山横穴墓群』2010 西ノ島町教育委員会

奈良県の平城京跡などから多くの「隠岐国木簡」が出土しました。木簡の大半は隠岐国から都に送られた税（調＝現物で納める税）につけられた荷札です。品目のほとんどが鰯（アワビ）、烏賊（イカ）、海藻（メ：ワカメの類）、ミル貝、ノリなどです。納める量は、木簡では「六斤」（約3.8kg）を単位とする例が多いです。ここに挙げた木簡は平城京から出土した二条大路木簡です。木簡の端の切れ込みは、物品に紐で括り付けるためのものと考えられます。二条大路木簡には、聖武天皇や藤原氏に関係するものが含まれており、彼らも食したかも知れません。

図10 隠岐国の木簡→



～奈良時代の隠岐～

年 組 名前

聖武天皇は、不安な世の中が仏教の力で安らかになることを願って、国ごとに国分寺・国分尼寺を建てることを命じました。その時代の隠岐のようすを見てみましょう。

challenge

- ① 隠岐にも国分寺の跡が残っており、そこから当時の建物の瓦が発掘されています。右下の絵は出雲国分寺の想像図です。絵を見て気がついたことを書きましょう。（教科書にある他国の国分寺の想像図とくらべてみてもおもしろいです。）



隠岐国分寺跡



のきまるがわら 軒丸瓦（隠岐国分寺跡出土）

当時、屋根に瓦がふいてあるのは、役所や寺の建物だけだったよ。



出雲国分寺想像図

- ② 左下の写真は、隠岐国の役所で使われたと伝えられているものです。何に使われたと思いますか。



和同開珎銀銭
（左はX線写真→）



奈良時代のお金「和同開珎」が隠岐から出土しています。



コラム



右上の写真は、奈良県の平城京跡から出土した木簡で、隠岐国から都に送られた税（調）につけられた荷札です。都の天皇や貴族が隠岐の海の幸を楽しんだのかも知れません。

- ③どんな品が都に送られていたのでしょうか。赤い文字が読めるかな？

隠岐国海部郡 御宅郷弟野里日下部口伊調御取銀四斤天平七年
隠岐国周吉郡 新野郷丹志里宗我部河久多調鳥賊六斤天平七年
隠岐国海部郡 作左郷大井里海部直麻呂調海藻六斤天平七年